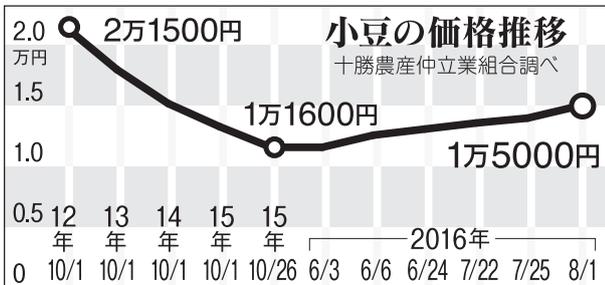


あんの原料になる小豆の価格が上昇している。国産の7割を占める十勝産は17日現在、1俵（60キロ）当たり1万5000円で、2カ月間で3400円値を上げた。作付面積の減少や天候不順で2016年産の新物の供給が減る可能性があるため。仕入れ価格に影響する加工業者は作柄や市況動向を注視している。



十勝農産仲立業組合によると、小豆を脱穀したままの「素俵（すびょう）」の価格は、1俵1万5000円。6月3日の同1万1600円から2割上昇し、14年10月以来の水準となった。東京商品取引所の小豆先物相場も3年ぶりの高値を付けている。

小豆相場はこの数年、豊作が続き在庫もあることから価格が下落していた。同1万1600円は3年前の半額近くの価格。下落で生産者の手取り収入も減るため、今年の作付面積は前年の1割減の見通しになった。さらに小豆の成長に重要な6、7月の天候不順で生育が遅れ、新物の供給不足の可能性があり価格が上昇しているとみられる。

### 菓子・加工業者 動向を注視

雑穀卸の丸勝（帯広市）の梶原雅仁社長は、昨年から繰り越された在庫が残っていて全体の供給量には影響はないとしながら、「新物が平年作に届くかどうかは今後の天候次第。不足する可能性もある。豊作にならない限り今の価格が下がることはないのではないか」とみている。

池田町の農家は「1俵いくらかで売れるかを考えて作っているから価格が上がるのは歓迎。ただ収穫量が増えないと手取りは増えない」と話し、台風接近による大雨など不安定な天候に表情を曇らせる。

今後の市況の推移は最終的な作柄や在庫量次第になる。北海道菓子工業組合十勝支部の支部長を務める柳月の田村昇社長は「秋の天候によって作柄が持ち直すので収穫を見届けないと何とも言えない。在庫もあると聞いており、今の段階で値上げを検討している地元業者はないのではないか」と話している。

台風10号による大雨の影響で、ジャガイモの収穫や成熟期に入る豆類の生育で遅れが顕著になっている。十勝総合振興局が6日発表した作況調査（1日現在）によると、ジャガイモの「収穫始め」は平年より7日遅れ、豆類は同4、5日遅い。農業被害は4日午前10時現在、道に報告が上がった5町村だけでも3505ヘクタールに上っている。



雨が続きジャガイモ畑にできた水たまり（6日）

### 豆類 生育遅れ顕著

管内は8月中旬に晴れた日はあったが、後半は台風の通過、接近で雨の日が多かった。下旬の降水量は平年の約4倍、日照時間は少なく、平均気温はかなり高かった。

ジャガイモの収穫の進捗（しんちよく）率は1日現在2.5%で、「収穫始め」の5%に達していない。平年の8月28日に対して7日の遅れとなっている。同局農務課は「8月下旬に雨が続き畑が乾かず、ぬかるんで機械が入れない」とした。イモの数や重さは平年並みながら、悪天候で収穫が進まない状況。イモは水分を多く含んだ畑に長時間あると腐敗する恐れがある。

豆類は金時の生育が平年より4日遅く、手亡は5日遅い。収量につながるさやの数は金時で平年比84%、手亡は同80%と「少ない」との評価。同課は「今後は収穫に入るので今年の収量は少ないとみられる」とし、品質は今後の天候次第と解説した。大豆と小豆の生育は4日遅れ。着さや数は小豆が平年並み、大豆は同89%で少ないが、「収穫期までもう少しあり、金時や手亡の状況とは違う」とした。